

# ネパール

ネパールはヒマラヤ山脈のそばの、東西に細長いかたちをした内陸国です。



ネパールでは、安全な飲み水を利用できる人が全人口の77%、トイレ等の衛生設備を利用できている人は46%しかいません。特に都市部では、増え続けるゴミ・下水に対して処理が追いついていない状態です。一方で、トイレの後にトイレトイレットペーパーではなく手を使って清潔にする習慣や、食事を手で食べる習慣があり、子どものころから、安全な衛生設備を使える環境で手洗いなどの衛生習慣を身につけることがとても大切です。教育面においても、人口の60%が学校に通ったことがないといわれており、より多くの子どもたちが学校に通えるような支援が必要です。



トイレ



街のゴミ



教室の様子

## PROJECT

ネパール赤十字社では、政府やユニセフなどと協力して、学校の青少年メンバーを通じて、学校内から地域にまで保健衛生知識を普及していく活動に長年取り組んでいます。

### 衛生・教育環境の改善

学校の中の、水道・トイレ・ゴミ箱などの衛生設備を修理したり新しく作ったりするとともに、子どもたちが先生や地域の人たちと一緒に衛生知識を学びます。



校内に作られた水道

### 青少年赤十字活動の支援

生徒の活動をサポートできるよう、先生向けの研修会を開いたり、教材を配付したりしています。各校では、生徒が救急法や衛生について学び、他の生徒や地域の人たちに伝えています。



先輩から後輩へ、手洗いの仕方を教えます

生徒が調べて作った、地域の衛生設備のマップ

### 国際理解・親善

日本とネパールの子どもたちが互いを知り、より身近に感じることができるよう、トピックアルバムを交換したり、訪問して交流を深めたりする活動があります。また、ネパールの子どもたちが必要とする文具を贈っています。



子どもたちが必要とする文具を贈っています。

真っ白なノートをもらったのはうれしかった。大切に使っていきます。

受け取った文具セットを大切に使う(マカワンプルの小学校)

参考文献：Three Year Interim Plan (2006/07-2009/10), National Planning Commission District Profile of Nepal 2007/08, Intensive Study & Research Centre

## 考えよう、わたしたちにできること

わたしたちの普段の生活とくらべて、何が違うでしょうか？

わたしたちにできることは何でしょうか？

### ●3カ国のこと、各国の青少年赤十字メンバーやボランティアのことを調べよう

図書館やインターネットで3カ国のことを調べてみましょう。日本赤十字社の資料も活用できます。

### ●現地の子どもたちと交流しよう

トピックアルバム(写真を貼ったり、絵やメッセージを書いたカード)を交換したり、直接交流できる国際交流プログラムに参加する方法などがあります。

### ●青少年赤十字活動資金に協力しよう

教育等支援事業のために使われる“青少年赤十字活動資金(1円玉募金)”は、日本赤十字社各都道府県支部で受け付けています。

最寄りの日本赤十字社都道府県支部へのお問い合わせは

**0570-009595** (ナビダイヤル)

日本赤十字社 総務局 組織推進部 青少年・ボランティア課 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3  
TEL: 03-3437-7082 FAX: 03-3432-5507 ホームページ: <http://www.jrc.or.jp>



平成23年3月31日発行

# 鉛筆をここまで使ったこと、 ありますか？



わたしたちにとってあたりまえのこと、  
それは想像以上に大きなことかもしれません。



青少年赤十字活動資金による教育等支援事業  
International Friendship Project

アジアの子どもたちとともに

# 世界では…

1億100万人

1億100万人の子どもたちが学校に通っておらず、その数は男子よりも女子の方が多い

11億人

11億人はトイレを利用することができず、衛生習慣として最も危険な形態(屋外での排泄)をとっている

150万人

下痢が原因で、毎年、推定150万人の5歳未満の子どもたちが死亡している

わたしたちにとって“あたりまえのこと”が難しい状況の中で生活している、世界の仲間がいます。

一方、わたしたちの毎日の生活は世界のさまざまな人々のかかわりの上に成り立っています。

ともに助け合い、平和で、幸せな社会を築いていくために取り組むことが必要ではないでしょうか？

## できることから始めよう

世界の仲間が直面しているさまざまな問題を知ること、少しでもその状況を改善するためにできることから一緒に取り組むこと。

日本赤十字社では、青少年赤十字メンバーや指導者の先生と相談し、メンバーがこのような思いからボランティアに集めている“青少年赤十字活動資金”を活用して、アジアの3カ国で青少年に対する支援を行っています。

## バングラデシュ

バングラデシュはインド洋に面したガンジス川河口に位置し、人口は約1.5億人、高い人口密度をもつ国です。



バングラデシュでは、少しずつ経済や保健、教育などの状況が改善されてきているものの、いまだに人口の84%は1日2ドル以下の生活にあり、貧困が大きな課題となっています。また洪水・サイクロンなどの自然災害が頻繁に発生する地域でもあります。

新生児・妊産婦死亡率の高さや、5歳以下の子どもの46%が栄養不足の状態にあること、また改善された衛生施設(トイレ)を使用できるのは人口の36%にとどまるなど、貧困と関連した保健衛生の問題が多くあります。

## PROJECT

バングラデシュ赤新月社では、青少年に対して保健衛生や赤十字・赤新月についての知識を伝え、その青少年自身が学んだ知識を広めていくピア・エデュケーション活動を実施したり、災害時に救護活動に参加したりできるようサポートしています。

### 衛生・教育環境の改善

学校内の衛生設備の改善や保健室の設置、メンバーに対する救急法講習や清掃活動のサポートを行います。また、特に貧しく困難な環境におかれた子どもたちが必要としている文具を贈っています。



文具セットを受けとる生徒たち

### 青少年赤十字活動の支援

メンバーの活動をサポートできるよう、指導者やサポート役の“コア・ボランティア”に対する研修会を開いています。各校では、メンバーが学んだ救急法や衛生、赤十字・赤新月についての知識を、他の生徒に伝えています。



ジャマルプールの高校・青少年赤新月メンバー

メンバーであることをとても誇りに思います!

### 国際理解・親善

日本とバングラデシュの間でトピックアルバム(絵やメッセージを書いたアルバム)を交換したり、訪問したりして交流を深めています。また、バングラデシュ国内でメンバーが相互訪問を行い、互いに学ぶ機会を作っています。



自分で描いた絵を贈るメンバーたち

## モンゴル

モンゴルはアジア大陸中央の、中国の北に位置する内陸国です。



モンゴルでは高い貧困レベルとともに、都市への人口集中が問題となっています。原因として、まず地方では雇用や収入を得る機会が限られていること、インフラの未整備や不十分な教育・健康サービス、市場・情報へのアクセスの困難さがあげられます。さらには遊牧で生計を立てることができなくなった遊牧民が地方から移住し、「ゲル」(移動式住居)を都市郊外に立てて集落を形成することなどがあります。

また、安全な飲み水を利用できる人は、全人口の76%、適切な衛生施設(トイレ)を利用する人は、50%です。

## PROJECT

モンゴル赤十字社では、同年代に知識を伝えるピア・エデュケーターの育成や指導者の研修を行い、青少年赤十字の組織を強化して、学校における教育・衛生環境の整備とあわせた保健衛生の知識や衛生習慣の普及を行っています。

### 衛生・教育環境の改善

文具6,000セット(1年あたり)を必要とする子どもに配付するほか、学校に対してスポーツ用品を配付しています。また、学校のトイレを修理したり新しく作ったり、“赤十字活動ルーム”を学校に設置する活動を行っています。



文具セットを受け取った生徒たち

### 青少年赤十字活動の支援

メンバーに対する研修会を開き、救急法や保健衛生の知識を伝えるピア・エデュケーターを育成しています。また、コンテストや会議を開いたり、普及のための教材を作成したりして、子どもたちによるピア・エデュケーション活動をサポートしています。



研修を受けてピア・エデュケーターに

家族に教えたり、となりの学校に教えに行ったりして、前より自分に自信が持てるようになりました。

ピア・エデュケーターから他のメンバーへ(毎年、夏に開催される全国ユースキャンプ)

### 国際理解・親善

日本とモンゴルの間でトピックアルバムを交換したり、互いを訪問したりして交流を深めています。また、日本やモンゴル、他の国のメンバーが交流に使う国際キャンプの建設もサポートしています。